

# 船舶事故調査報告書

平成28年4月21日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成27年12月17日 10時15分ごろ
発生場所	山口県大 <sup>おおほたけ</sup> 島 <sup>おおいそ</sup> 瀬戸の大磯 大磯灯台から真方位203° 100m付近 (概位 北緯33° 57.2′ 東経132° 10.6′)
事故の概要	プレジャーボート <sup>ロイヤル</sup> Royalは、漂泊中、大磯に乗り揚げた。 Royal は、船尾船底及び船外機の底部に擦過傷等を生じた。
事故調査の経過	平成27年12月24日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート Royal、5トン未満（長さ6.27m）
船舶番号、船舶所有者等	291-30480山口、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	船尾船底及び船外機の底部に擦過傷、船外機用舵取機の油圧シリンダに曲損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期、潮流 北東流2～3ノット
事故の経過	本船は、大島瀬戸の大磯（干出岩）南西方沖で、船首を北東方に向け、機関を中立運転として風潮流に圧流されながら釣りをを行い、大磯灯台から目測約150mの所まで近づいたら機関を使用して元の場所へ戻り、繰り返し釣りを行っていた。 船長は、操舵室右舷後方で右舷後方を向いて釣りに集中していたので、本船が大磯に近づいたことに気付かなかった。 本船の喫水は、船首約0.2m、船尾約0.5mであった。
分析	本船は、風潮流に圧流されながら漂泊中、船長が、釣りに意識を集中し、船位の確認を行っていなかったことから、大磯に接近していることに気付かなかったものと考えられる。
原因	本事故は、風潮流に圧流されながら漂泊中、船長が、釣りに意識を集中し、船位の確認を行っていなかったため、本船が大磯に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 常時適切に船位の確認を行うこと。